
俺と木下姉妹と召喚獣

ルルが効く

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と木下姉妹と召喚獣

【Nコード】

N6691Z

【作者名】

ルルが効く

【あらすじ】

木下姉妹と同棲している坂井知樹。

彼はどうなっていくのか？

プロローグ(前書き)

はじめに

プロローグ

「……きるのじゃ」

「ん？」

「早くおきるのじゃ」

「ああ、おはよう秀姉」

寝ぼけながらあいさつをする

「おはようなのじゃ、知樹」

「ああ、今日は振り分け試験の日か」

「すまぬが姉上を起こしてきてくれぬか？」

「ん、了解」

コンコン

「はいるよ優姉」

入るとジャージなどが散らかっているB1本も、片付けようよ……

「起きてよ優姉遅刻してしまうよ」

「ん、おはよう知樹」

「おはよう、優姉」

さて朝食を作りますか

「朝食は何がいい？優姉・秀姉」

「「なんでもいいわ（のじゃ）」」

「そう？じゃあサンドイッチにするよ」

上手にできたな

「「「「ごちそうさまでした」」」」

「さあ、学校に行こうか秀姉」

「うむ、行こうかの」

「待ちなさーーい」

「遅いのじゃ、姉上」

「はあはあ、あんた達が早いのよ」

「それはともかく秀吉、アンタはFクラスに入らないわよね？」

「う、うむ、大丈夫なのじゃ・・・多分」

「まあまあそう脅すなよ優姉」

「あんたは、黙ってて」

「・・・はい」

「姉上には勝てぬのお」

「じゃあ小手調べね『三権分立』の『司法』『立法』あともう一つは？」

「む、分からないのじゃ」

「行政だろ？」

「正解よ、秀吉アンタ勉強した？」

「・・・してないのじゃ」

「このバカッ」

「次の問題いこうぜ」

「はあ、じゃあ、That is a dog これは中学生レベルよ」

「分からないのじゃ・・・」

「・・・同じく」

「あなた達は・・・」

「ほら、もう学校だぜ。俺こっちだから」タッタッタ

「わしもじゃ」タッタッタ

「大丈夫かしら・・・」

優子の呟きは誰にも聞こえなかった

プロローグ（後書き）

ありがとうございました

プロローグ2 (前書き)

はじめ

プロローグ2

「おはよう坂井、木下姉妹」

「「「おはようございます（なのじゃ）、西村先生」「」

「うむ、おはよう。これがお前らの振り分け試験の結果だ」

「「「ありがとうございます（なのじゃ）」「」

「さあどこのクラスかな？」

「ビリッ」

「あ、Aクラスだ」

「私もよ、秀吉は？」

「Aクラスなのじゃ」

「え、本当!？」

「あれから知樹が作ってくれたノートを見なおしていたのじゃ」

「三人ともよく頑張ったな、さあ行って来い。戦争に負けるなよ」

「」「はい!」「」「」

こうして俺と木下姉妹の最高クラスによる生活が始まった。

主人公設定（前書き）

どうぞ

主人公設定

坂井 知樹 (さかい ともき) 16歳 男

身長160cm 体重50kg

趣味 ランニング お菓子作り 料理 (明久以上)

性格 人見知り 優しい 慎重 おとなしい

好きなこと・もの 秀吉 優子 (秀姉 優姉と呼んでいる)

嫌いなこと・もの 秀吉 優子を傷つける人 FFF団 根元
小山 西村以外の教師

得意科目 現代社会 日本史 世界史

苦手科目 英語

召喚獣 魔法使いみたいな格好。周りに7つの玉がありそれぞれ

効果がある。

木下姉妹に深い縁があり何かあった時はすごいキレる

原作と異なる点

秀吉は女

秀吉はAクラス

主人公設定（後書き）

ありがとうございました

第一問（前書き）

じじい

第一問

ここがAクラス？

普通の教室の5倍の大きさはあるぞ・・・

「とりあえずなかに入ろうか」

ガラッ

「おっ、久しぶりだな」

「おはようございます知樹君」

彼女は佐藤美穂去年、同じクラスだった奴だ。

「今年も同じクラスになって嬉しいよ」ニコ

「そ、そうですね／＼／」

「？ 痛っ」

「「ふん」「」

なんで二人とも怒っているんだろう？

「とりあえず座るか」

「私は隣に座ろ」

「わしもじゃ」

「おいおい、席なんかどこでもいいだろ」

「「よくない(のじゃ)」」

そうですか

ガラッ

そんな感じで喋っていたら先生が来た用だ

「皆さん進級おめでとございます。私はこの二年Aクラスの担任、高橋洋子です。よろしく願いします」

そういうと、壁全体を覆うほどのプラズマディスプレイに名前が表示された。

豪華すぎるだろ、むしろ無駄じゃね？

眠くなってきた寝よう

「……きなさい」

「なんだ？」

「自己紹介よ次でアンタの番」

「坂井知樹だ一年間よろしく」

自分の自己紹介を終えそしてまた寝た。

「……翔子です。よろしく願いします」

起きたら霧島さんが自己紹介をしていた。彼女が学年主席なんだな。同性愛という噂が流れているけど、まあ一途に思っている人がいるからだろな。

自己紹介が終わると

高橋「貴方達は自習しててください」

「試召戦争ですか？」

高橋「はい、F対Dの」

「頑張ってくださいね」

高橋「では行ってきます」

A「馬鹿じゃね？新学期早々試召戦争なんて」

A「言ってる、まあ勝つのはDだろうな」

「いや、Dは負けるだろうな」

優子「なんで？」

優姉は疑問に思っただらしく首をかしげる、横で秀姉も頷いている。

「Fクラスには姫路さんが居るからな」

秀吉「なぜわかるのじゃ？」

「彼女はAクラス候補だったからだ。まあ途中退席だろ」

優子「Dクラスの代表は冷静な判断の出来る平賀君よそう簡単に負ける？たかがFクラスよ」

「甘いよ優姉。いくら冷静にいたって姫路さんが出てきたら味方が浮き足立つさ。後、

坂本君、吉井君が居るから、それに」

優子「それに」

「坂本君は元神童、頭は教師に匹敵するだろう。吉井君は観察処分者。つまり物理干渉が出来るし、なにより操作技術は学園一だ」

？「なるほど、詳しいね」

「誰？」

「僕の名前は工藤愛子スリー」わかった、よろしく」むっ」

工藤「詳しいね、もっと教えてよ」

「ああ。それと姫路さんは学年トップクラス。島田美波は数学はBクラス並み。土屋康太は情報力に長け保健体育なら学園一だろう。まあ二人ともほかがFクラス並みだけだな」

秀吉「なぜ去年もクラスが違うのにそんなに詳しいのじゃ？」

「調べておいたからだ。情報力なら土屋君に負けん」

佐藤「坂井君ってすごいね」

「知樹でいいよ」

もっそろそろ飯の時間だな

「飯にするか。はい二人の弁当」

「「「ありがとう(なのじゃ)」」

工藤「坂井君は料理が得意なの?」

「まあな」

秀吉「知樹のお弁当は美味しいのじゃ」

「食べるか?」

工藤「うん」

俺の弁当から卵焼きをつまみ工藤さんの弁当の中に入れる

工藤「パクッ。もぐもぐ。ごくん。美味しいね」

「ありがとう。そう言ってもらえるとうれしいよ」

「佐藤さんは?」

佐藤「いただきます」

俺の弁当からミニハンバーグをつまみ佐藤さんの弁当の中に入れる

佐藤「パクツ。もぐもぐ。ごくん。美味しい」

「よかった。あんまり自信はなかったんだ」

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

しばらくして自習していると

『勝者Fクラス』

「ほらな？」

優子「信じられない」

「多分設備交換はしないだろ。次は多分Bクラスだな」

工藤「なんで？」

「Dクラスを押さえればBクラスに攻める道になるし、Eクラスの抑制にもなる。Bクラスを抑えればAクラスに脅しを掛けられるし、他のクラスの抑制にもなるからな」

優子「なんでAクラスに脅しがくるの？」

「あいつらの最終目標はAクラスだからだ。あといくら最高のクラスでも連戦はキツイからだ」

工藤「そこまで考えてるんだね」

「まあな、俺はもうそろそろ帰るかじゃあな工藤さん、佐藤さん」

秀吉「待つのじゃ、ワシも帰るのじゃ」

優子「私もよ」

そして家に帰って俺は寝た

第一問（後書き）

ありがとうございました

第二問（前書き）

じじい

第二問

「おはよう。秀姉」

「おはようなのじゃ知樹。ランニングか?」

「うん、今帰って来たところ」

「優姉は起こす?」

「お願いするのじゃ」

コンコンッ

「入るよ優姉」

ガチャ

入ると優姉がいた

「え？」

下着姿の

「／／／ゴメン」

ボタン

ビックリしたー

「さっきはごめん、優姉」

「うん、いいわよ許してあげる・・・」

「？」

「その・・・見て何と思った？／／／」

「かわいいと思った／／／」

「そ、そうなんだ／＼／」

「ご飯出来てるから食べよう／＼／」

「うん／＼／」

まだ顔が熱いに分かる

「「「いただきます」「」」

「／＼／」チラ

「／＼／」チラ

「何かいい事あったかの？」

秀姉が怒ってる

「知樹よ、後でワシの部屋に来るのじゃ」

「分かった」

「「「「ちそうさまでした」「」

コンコン

「入るよ秀姉」

ガチャ

がし（秀姉が僕をつかむ音）

ドン（秀姉が僕を押し倒す音）

か、顔が近い

「／／／」

「なんでワシの顔を見ないのかの？」

「姉上だけずるいのじゃ」

そついうと秀姉は服を脱ぎ始めた

「や、止めてよ秀姉／＼／」

バタン

「もう行かないと学校に遅刻するわ＼．．．な、何やっているのよ秀吉！！」

「俺は学校にいこつと」

「ワシも行くのじゃ」

「おはようみんな」

佐藤「おはようございます」

工藤「おはよー。今日もイチャイチャしてるね」

優・秀「イチャイチャなんかしてないわよ（のじゃ）／／／」

「そっだぞ。秀姉や優姉が俺なんかとつり合う訳ないだろ」

優・秀「ハア…」

「？」

工藤「鈍感だね」

佐藤「そうですね」

高橋「今日も試召戦争のため自習です」

「B対Fか」

B「すいませ〜ん、坂井くんはいますか？」

「俺だが、何のようだ」

B「ちょっと来てもらってもいいですか？」

「？ああ」

「何の用だ？」

？「少し寝てる」

ドカッ

「うっ」

ボタン

そして俺は気を失った

「・・・い」「・・・い」

「ん……」ムク

「痛っ」

「動くな」

「誰だ？」

「西村だ。なぜお前は倒れてたんだ？」

「Bクラスの奴に呼び出され、後ろから殴られたんだ」

「今日は遅いから帰れ」

「はい。木下姉妹は？」

「先に帰らせた。大島先生の付き添いのもとだ」

「ありがとうございます」

そして家に帰り眠った

第二問（後書き）

ありがとうございました

第三問（前書き）

じじい

第三問

「おはよう秀姉、優姉」

ガシ

「心配したのじゃ」

「本当よ」

「ごめんねもう、大丈夫」

「うあああん」

ギユウ

「ごめんね」

「グスン、もっと強くして欲しいのじゃ」

ぎゅっ

ナデナデ

「はふう」

「よし、ご飯にしようか」

「いただきます」「」

「」「ちそうさまでした」「」

そのあと三人で学校に行った

そしてみんなに心配された

そして自習していると（F対Bの試合戦争のため）

ガラッ

「我ら、CクラスはAクラスに試召戦争を申し込みます」

来たな

「・・・受ける。開戦は午後から」

「いいわ、覚悟しておきなさい」

バタンツ

「開戦は午後か、指揮は俺が執っていい？」

「・・・構わない」

「ありがとう、それじゃあ指揮は俺が執ることになったみんなよろしく」

一同『おう！！！！』

「それじゃあ、早速部隊に分けるぞ」

カチカチ

・先行部隊 隊長 久保

副隊長 工藤
人数 15人

・中堅部隊 隊長 木下優子

副隊長 木下秀吉
人数 15人

・遊撃部隊 隊長 佐藤

人数 9人

・本隊 隊長 霧島

人数 10人

「こんなもんか」

霧島「・・・貴方は？」

「俺は突撃する。先行部隊より先にな」

工藤「一人で大丈夫なの？」

「問題ない」

弁当タイム

「さあ、開戦だ！このクラスの設備を守るぞ」

一同『おう！！』

ガラッ

「Aクラス坂井知樹Cクラス五人に数学で申し込む試験召喚」

C「なめるな試験召喚」

坂井知樹 256点 VS C五人 平均 135点

「喰らえ」

杖から火を出し喰らわせる

「おらおらおらー」

坂井知樹 198点 VS C五人 平均 78点

「とどめ！」

坂井知樹 156点 VS C五人 0点

西村「戦死者は補習——————」

「ご苦労様です

てゆうかなぜ5人も担げる？

「ふー、終わった」

工藤「大丈夫？」

「ああ、お前ら気を引き締めるぞ！！！」

A『おうよ！！』

意外とノリいいな

久保「後は僕たちにまかせて君は補給試験に行ったらどうだい？」

「わかった。ここは任せた」

「よし終わった」

よし行くか

『勝者Aクラス』

まじかい

『勝者Fクラス』

Fも勝ったか

俺は小さくほほ笑んだ

優子「勝ったわよ」

「ああ、良くやってくれた」

工藤「代表まで戦ったもんね」

霧島「・・・頑張った」

「みんなよくやってくれた今日はもう帰ってくれ」

「解散!!!!!!」

第三問（後書き）

ありがとうございました

第四問（前書き）

じじじ

第四問

ガラッ

「Fクラス代表の坂本雄二だAクラスに試召戦争を申し込みに来た」

やっぱり来たか

メンバーが坂本君、吉井君、姫路さん、島田さん、土屋君だ

「まあ、すわれや」

坂本「お前が代表か？」

「違う。おーい代表」

霧島「何？」

「旦那が呼んでいる」ボソ

霧島「何の用？」

坂本「Aクラスに一騎打ちを申し込みに来たんだ」

霧島「かまわない」

坂本「じゃ今ここですか」

霧島「内容は？」

坂本「対戦内容は五対五の一騎打ち。対戦科目はFが三回、Aが二回決められる。でいいか？」

霧島「かまわない」

坂本「交渉成立だな」

高橋「これよりA対Fの一騎打ちを始めます。先鋒の方、前に出てきてください」

「優姉が行って」

優子「わかったわ」

島田「ウチが行くわ。数学勝負でお願いします」

得意科目かまあ大丈夫だろ

高橋「承認します」

優子・島田「サモン試験召喚」

Aクラス 木下優子 VS Fクラス 島田美波

数学 396点 204点

勝負は一瞬で決まった

高橋「勝者Aクラス」

まずは一勝

「よく頑張ってくれた」ナデナデ

優子「あ、ありがとう／＼／」

なんだか向こうの陣地から嫉妬と殺気の視線が突き刺さるが気にしない

Aクラス・・・一勝

Fクラス・・・0勝

第四問（後書き）

ありがとうございました

第五問（前書き）

じじじ

第五問

高橋「次の人前に」

坂本「少し待ってくれ。おいAクラスに提案がある次の戦いは二人にしてくれ」

霧島「・・・かわまない」

高橋「では両クラス二人ずつ出してください」

「佐藤さんと秀姉出て」

佐・秀「わかったわ（のじゃ）」

佐藤「物理でお願いします」

？「俺たちが出よう」

佐・秀「・・・？」「」「」「サモン試獣召喚」「」「」

Aクラス 佐藤美穂・木下秀吉 VS Fクラス 須川亮・横溝
浩二

389点

231点

79点

6

1点

瞬殺だった

高橋「勝者Aクラス」

これで二勝

「二人ともよくやってくれた」ナデナデ

佐・秀「うん／＼」

高橋「次の人前に出てきてください」

工藤「僕が行くよ」

「ああ頼んだ」

「・・・俺が行こう」

土屋君が負けたな

高橋「科目は何にします」

土屋「保健体育」

工・土「（・・・）サモン試獣召喚」

Aクラス	工藤愛子	VS	Fクラス	土屋康太
441点				578点

ザシユ

高橋「勝者Fクラス」

「どんまい、次頑張ろう」ナデナデ

工藤「う、うん／＼」

Aクラス・・・二勝

Fクラス・・・一勝

第五問（後書き）

ありがとうございました

第六問（前書き）

じじじ

第六問

高橋「次の人、前に出てきてください」

久保「僕が行こう」

「じゃあ頼む」

姫路「私が行きます」

姫路さんか不味いな

久保「総合科目でお願いします」

高橋「承認します」

久・姫「サモン試獣召喚」

Aクラス	久保利光	V S	Fクラス	姫路瑞希
	3990点			4409点

勝負は決まっていた

高橋「し、勝者Fクラス」

「どんまい、負ける時もあるさ」

久保「すまない」

これで2対2

高橋「最後の方出てきてください」

坂本「俺だ」

霧島「・・・行ってくる」

坂本「科目は日本史、小学生レベルの問題。それと100点満点の上限ありだ」

集中力と注意力が必要だな

しばらくして

Aクラス 霧島翔子 97点

Fクラス 坂本雄二 53点

高橋「三対二でAクラスの勝利です」

吉井「雄二、なんだあの点数は」

坂本「いかにも俺の実力だ」

吉井「納得行かない」

「じゃあ、俺と勝負するか？」

吉井「いいの？」

「ああ。四対一で来ていいぜ、いい代表？」

霧島「・・・かまわない」

吉井「じゃあ姫路さんと雄二とムツツリー二で」

「科目は総合科目でお願いします」

高橋「承認します」

俺・吉・坂・土・姫「サモン試獣召喚」

Aクラス	坂井知樹	V S	Fクラス	坂本雄二	土屋康太
6780点			1280点	980点	

Fクラス	姫路瑞希	吉井明久
4100点	756点	

A「学年主席以上じゃねえか」

いくぜ

「いでよ火の精霊『ヒータ』」

「行け！」

火の精霊が土屋君の召喚獣をのみ込む

Aクラス 坂井知樹 VS Fクラス 坂本雄二 土屋康太

6000点 1280点 0点

Fクラス 姫路瑞希 吉井明久

4100点 756点

「いでよ風の精霊『ウイン』」

「行け!!!」

風の精霊が坂本君の召喚獣を巻き込む

Aクラス 坂井知樹 VS Fクラス 坂本雄二 土屋康太

5000点 0点 0点

Fクラス 姫路瑞希 吉井明久

4100点 756点

「これで最後だ!!」

「臨・兵・闘・者・皆・陣・裂・在・前」

ドコオン

爆風が発生し周りが見えなくなる

そして周りが見えてくると一体の召喚獣が立っている

Aクラス	坂井知樹	V S	Fクラス	坂本雄二	土屋康太
	1点			0点	0点

Fクラス	姫路瑞希	吉井明久
	0点	0点

Aクラス対Fクラスの試験召喚戦争が終結した

第六問（後書き）

ありがとうございました

第七問（前書き）

試験召喚戦争終結です

第七問

霧島「・・・雄二。私の勝ち」

坂本「・・・殺せ」

霧島「・・・約束」

坂本「用件はなんだ？」

霧島「・・・雄二私と付き合って」

おー、周りが固まってる

「おめでとつ。早速デートに行っ来て来い戦後対談はやっておく」

霧島「・・・ありがとう」

坂本「た、助け」

ズルズルズル

あの巨体を運んで行くとは・・・

「西村先生、Fクラスの設備をワンランク落としてください。それと姫路さん島田さん」

西村「気がついていたらとはな」

島田・姫路「（なに）なんですか？」

「吉井君をいじめないでね。それと鈍感だから頑張ってる」

島田・姫路「（わかったわ）はい」

西村「では、教室に行くぞ我がFクラス」

あー、どんまいww

さて帰ろうかな

佐・工・秀・優「あの」

「ん？なんだ？俺になんか用か？」

佐・工・秀・優「私（ワシ）と付き合ってください（ほ
しいのじゃ）／／／」

「え？まじ俺が？冗談だろ」

佐・工・秀・優「本気だよ（なのじゃ）／／／」

まじかい

「え、選べないよ／／全員と付き合ったらダメ？」

佐・工・秀・優「いいよ（いいのじゃ）／／／」

「ありがとう。よろしくね」「二」

試召戦争の勝利そして彼女ができた

俺は幸せ者だな

第七問（後書き）

ありがとうございました

バカテスト(前書き)

どうぞ

バカテスト

問『大化の改新は何年に起きたでしょう』

坂本雄二・坂井知樹の答え「645年」

教師のコメント「正解です」

霧島翔子の答え「625年」

教師のコメント「おや？霧島さんが不正解なんて珍しいですね」

吉井明久の答え「うなれ！ストライカーシグマV」

教師のコメント「後で職員室に来なさい」

問『試験召喚戦争の読み方をひらがなで書きなさい』

吉井明久以外の答え「しけんしょうかんせんそう」

教師のコメント「正解です」

吉井明久の答え「試験召喚戦争」

教師のコメント「ひらがなでと書いたはずです」

問『That is a dogを訳しなさい』

木下優子の答え「それは一匹の犬です」

教師のコメント「正解です」

坂井知樹の答え「それは伊佐の毒です」

教師のコメント「伊佐とは誰ですか？彼女ですか？とりあえず不正解です」

木下優子・木下秀吉・佐藤美穂・工藤愛子の答え「浮気は許さない(のじゃ)」

坂井知樹の答え「た、たすけ、ギャー」

問『女性は（ ）を迎えることで第二性徴期になり、特有の身体つきになる』

霧島翔子の答え「初潮」

教師のコメント「正解です」

吉井明久の答え「明日」

教師のコメント「随分、急な話ですね」

土屋康太・坂井知樹の答え「初潮と呼ばれる、生まれて初めての生理。医学用語では、生理の事を月経、初潮ことを初経という。初潮年齢は体重と密接な関係がありー」

教師のコメント「詳しくすぎです」

問 担任の名前を答えなさい

Aクラスの答え「高橋洋子先生」

教師のコメント「正解です」

Fクラスの答え「鉄人」

教師のコメント「西村先生が職員室で待ってるそうです」

バカテスト（後書き）

ありがとうございました

第八問（前書き）

清涼祭の始まりです

第八問

桜の花びらが姿を消し、新緑の葉の芽が吹き始めたこの季節

俺たちの学校文月学園では『清涼祭』の準備が始まりつつある

まあ、文化祭みたいなものだ。

そして我がAクラスと言つと

高橋「では今から当選発表しますね」

坂井知樹・・・厨房兼執事長

久保利光・・・執事副長

木下優子・・・メイド長

霧島翔子・・・厨房副長

木下秀吉・・・メイド副長

工藤愛子・・・宣伝長

佐藤美穂・・・宣伝副長

・・・俺負担多くね？

「待て、おかしくないか？」

工藤「なにが？」

「俺の負担が多くないか？」

佐藤「仕方がないじゃないですか」

優子「執事服も似合うし、演技も抜群だし」

秀吉「うむ、演劇部に入って欲しいくらいじゃ」

「でもさあ・・・」

久保「決まったことだし、諦めて頑張ろうよ」

「そうだなみんなと思い出作りたいしさ」

工・佐・優・秀「／／／」

「おし、代表今回も俺が指揮を執っていいか？」

霧島「・・・お願い」

「それじゃあ、執事係は俺のとこ、メイドは優姉の所、厨房は代表の所、宣伝は愛姉の所にあつまってくれ」

なんかみんなが彼女になってから『私たちも 姉と呼んで』と言われたから、呼んでいる

優子「代表は料理出来るの？」

霧島「・・・(コクン) 試召戦争が終わってから坂井に教わっている」

ギリリリリ(坂井が四人から関節技を掛けられている音)

「ぎゃあああああああああ」

バタバタ(坂井が暴れる音)

工藤「えいつ」

ムニユ(坂井の顔がやわらかいものが当たる音)

「ふあふあしふえ(はなして)」

工藤「ひゃん」

秀・優・佐「工藤(愛子)(工藤さん)！？」

「ぷはあ、助かった」

工藤「あはははははは」

「なんで急に関節技をかけるの！？痛かったよ！」

優子「だって、代表に浮気したから・・・」

「なんで料理を教えただけで浮気になるの？俺が浮気なんて絶対にしないのに」

工・優・秀・佐「ごめんなさい（なのじゃ）」

「もういいよ、さあ始めるか」

楽しい祭りのはじまりだ

第八問（後書き）

ありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6691z/>

俺と木下姉妹と召喚獣

2011年12月24日12時49分発行